

教育目標	
心豊かにたくましく生きる子ども　～生涯にわたる人格形成の基礎を培う～	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	R 2 ・ 1 0 ・ 2 9	学校運営協議会（紙上にて）
最終評価	R 3 ・ 3 ・ 1 9	学校運営協議会

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組
一人一人の子どもが“ありのままに”感じ・表すことができるように、日々の保育の見直しや保護者との連携を、さらに深めていく。 その中で、子どもたちが ＊自然への関心を高める ＊多様性を認める ＊主体性を高める　ことができるようにする。 そのために『マインドフルネス』に注目し、一人一人の子どもの『今、この瞬間』がより充実できるような、援助や環境構成に努める。今年度は特に、次のような視点で保育を見直す。 ○活動の中で、一人一人の子どもの『感じる・表す姿』をより丁寧に読み取る。 ○『マインドフルネス』の状態になるための環境・活動の工夫をする。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・日々の幼児の姿の変容やエピソード検討
- ・保護者アンケート『園生活の中で、どのように成長したか』
- ・保護者アンケート『教職員や友達と一緒に過ごすことを楽しんでいるか』

中間評価

各種指標結果

- ・日々の幼児の姿の変容やエピソード検討
園内研修や日々の保育後の振り返りの中で、毎日子どもたちの姿を見直し、一人一人がどのような場面で『夢中』になっているか？自らありのままの姿を表しているか？について話し合うことができた。
- ・保護者アンケート『園生活の中で、どのように成長したか』
- ・保護者アンケート『教職員や友達と一緒に過ごすことを楽しんでいるか』
両質問とも 100%の保護者がそう思うと答えられた。

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・コロナ禍にもかかわらず、子どもたちは安定して過ごす姿や、まずは“ありのまま”の姿を表す姿がよく見られた。
- ・特に年長児では粘り強く取り組むこと、年中児では友達と一緒に過ごす中で、少しずつ『一体感』を感じること、年少児では幼稚園に来ることが楽しくなり、自分でしようとするようになってきたことなどがみられるようになってきている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・今後さらに、一人一人が「夢中」になる環境作りや、一人一人が『多様性』を認め合える関係作りを進めていきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・日々の幼児の姿の変容やエピソード検討
- ・保護者アンケート『園生活の中で、どのように成長したか』
- ・保護者アンケート『教職員や友達と一緒に過ごすことを楽しんでいるか』

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・園の様子を、今回は直接的にみることはほとんどできなかったが、アンケートや園児の登降園時の様子をみて、安定感を感じる。
- ・今後、コロナ禍においても、登降園時の見守りや、相談などの支援を行うことができる。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

自己評価

分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題

分析を踏まえた取組の改善

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
---------	----------------

（２）幼小連携・接続に関して

具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> ・「学びに向かう力」の育ちの姿を幼稚園以外の関係者にも分かりやすく発信する。 ・引き続き、２回以上の教職員の合同研修や、４回以上、互いの授業や保育を見る機会を設ける。 	
（取組結果を検証する）各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソードの数 ・幼小合同の研修の回数 ・アンケート項目 <p>『自分の気持ちを伝えようとしているか』 『好奇心をもって遊んでいるか』</p>	

中間評価

自己評価	各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソードの数 コロナ禍において２か月の休業期間も、14エピソードをもとに育ちを検証し、各学年に必要な、援助について学び、実践に生かした。 ・幼小合同の研修の回数 集合研修をもつことはできていないが、幼稚園での個々の子どもの育ちを伝えたり、環境の工夫や、活動の切り替え時の援助などを伝え合っている。 ・アンケート項目 『自分の気持ちを伝えようとしているか』 『好奇心をもって遊んでいるか』 『コロナ臨時休業中の園の取組は有効でしたか？』 全質問とも100%の保護者がそう思うと答えられた。
	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・長期の臨時休業があったにもかかわらず、安定感をもって園生活を送ることができている。 休業中の園からの様々な発信や支援、保護者の方との双方向の取組などにより、園との関係を持続することができた。これらのことが、子どもたちの『学びに向かう力』（特に安定感・好奇心・思いを表す力）につながっている。 ・入学後の１年生の授業を参観し、教師間での話し合いを行うことができた。 また、場や教材の使用や交流を昨年引き続き行っている。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・さらに『自ら考え、判断する力』『相手と思いや考えが違う時、自分の思いを十分に表すとともに、折り合いをつけようとする力』を高められるような保育を行う。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソードの数 ・幼小合同の研修の回数

	・アンケート項目 『自分の気持ちを伝えようとしているか』 『好奇心をもって遊んでいるか』
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・幼小連携は、実際に子ども同士の交流は難しいが、教師の交流や、学校の場の使用による交流を進めていってほしい。 ・伏見南浜学区以外の子どものも増えてきている状況の下、南浜小学校との連携を核として、他の学校へ進学する子どもの安心感も、高めていってほしい。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(3) 預かり保育に関して

具体的な取組 ・ 日常的な担当教員と教職員との話し合いの時間を確保する。 ・ 課題については、具体的な解決に向けての援助を明らかにし、実行に移す。 ・ 定期的に、預かり保育の環境を見直す。
(取組結果を検証する) 各種指標 ・ アンケート項目『預かり保育は子育て支援として役立っていますか』 ・ 預かり保育での、子どもの育ちの姿の検証 ・ 預かり保育指導計画の見直しを進める

中間評価

各種指標結果 ・ アンケート項目『預かり保育は子育て支援として役立っていますか』 100%の保護者がそう思うと答えられた。 ・ 預かり保育での、子どもの育ちの姿の検証 以前に比べ、より多く、異年齢児とのかかわりや、自分たちで問題解決をしようとする姿勢が、みられるようになってきている。 ・ 預かり保育指導計画の見直しを進める。 日々の記録や週案作成を丁寧に行い、年間指導計画に反映させている。
--

自己評価	<div data-bbox="225 215 481 259">分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時休業中も預かり保育を必要とする家庭の要望に応えることができた。 ・全般的に、預かり保育利用者は以前に比べ増加している。 ・預かり保育時間中の環境構成や、休息と活動のバランスのとり方などの工夫を重ねている。 <div data-bbox="225 409 568 454">分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、預かり保育時の子どもの姿や課題・育ちについて、他の教職員との連携をさらに進めていく。 <div data-bbox="225 560 903 604">（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目『預かり保育は子育て支援として役立っていますか』 ・預かり保育での、子どもの育ちの姿の検証 ・預かり保育指導計画の見直しを進める
学校関係者評価	<div data-bbox="225 745 624 790">学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・今後さらに、地域にも『預かり保育の実施』について周知できるよう、支援する。

最終評価

自己評価	<div data-bbox="169 1059 678 1104">（中間評価時に設定した）各種指標結果</div> <div data-bbox="225 1144 946 1189">分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <div data-bbox="225 1249 568 1294">分析を踏まえた取組の改善</div>
学校関係者評価	<div data-bbox="225 1323 624 1368">学校関係者による意見・支援策</div>

（４）子育ての支援に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの育ちの芽を見逃さずに、適切な援助を行えるように全教職員で子どもと関わる。 ・子どもの理解に加えて、保護者の思いも十分に受け止め、必要な子どもへの具体的支援を共に考えていく。その際に『目に見える』成長だけでなく『内面』の成長にも気付けるようにする。 ・未就園児クラスについては、年間の計画や活動内容を示し、活動計画や具体的な活動内容を配布プリントやホームページなどで発信する。 <p>（新型コロナウイルス感染拡大により、開催が困難な時期は、ホームページでの発信や、個別に遊びや子育てのアイデアなどを届けたり相談を受けたりする取組を続ける。）</p>
--------	---

<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・在園児保護者と連携する中での、子どもの育ちを検証 ・未就園児クラスの案内をより具体的で広範囲な発信 ・未就園児クラス内での、子どもとその保護者の『育ち』の検証

中間評価

	<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・在園児保護者と連携する中での、子どもの育ちを検証 園で、特に大切にしている『多様性』『自然』『ありのまま』のキーワードを保護者とも共有し、家庭生活の中での具体的な関わりを知らせることで、子どもたちの感性（気づき）や自然物や自然事象などへの関心が高まってきている。 ・未就園児クラスの案内をより具体的で広範囲な発信 ・未就園児クラス内での、子どもとその保護者の『育ち』の検証
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者自らが自然への興味を高められたり、多様性を認めたりする姿がよく見られる。 ・未就園児クラスを対象に、休業期間中も、遊びや子育てのアイデアや教材を届けたり、発信したりした。 ・未就園児クラスの参加者は、隣接学区にも広がってきている。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・在園・未就園保護者に対しても、子育ての中で大切にしたいことを、発信し続ける。 ・未就園児クラスにおいて、本園での一人一人の子どもたちの育ちと教師の援助などを、より分かりやすく発信する。
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・在園児保護者と連携する中での、子どもの育ちを検証 ・未就園児クラスの案内をより具体的で広範囲な発信 ・未就園児クラス内での、子どもとその保護者の『育ち』の検証
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・地域にも未就園児の取組が浸透してきているが、さらに情報が行き届いていないところがないかを見直し、発信していきたい。

最終評価

	<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div>
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div>

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
---------	----------------

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・園の取組を学区の諸団体にも行事予定などで発信する。 ・運営協議会を中心として、子どもの活動を多様なものにする。（花うりやさん、団子づくり、十石船の乗船、田んぼ遊び、ふしみ祭参加、夏の夕べ、お正月の集いなど）
（取組結果を検証する）各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容 ・運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とその中での子どもの育ち

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none">・学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容 2か月の臨時休業があったにもかかわらず、園からの情報発信の回数は増加している。 内容はより端的に教育内容や未就園児の取組が伝わるような工夫を行った。・運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とその中での子どもの育ち コロナ禍において、一緒に活動することはできていないが、米の栽培の取組や、日常の登降園時でのかかわりの中で深めることができています。 特に年長児は親しみや感謝の思いをもつことができています。	
自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none">・直接的な関わりの少ない中、心が通い合うかかわりは継続して行うことができています。 子どもたちはもとより、保護者の方々にも『地域とのつながり』や『社会の中で育つことの大切さ』などは伝わってきている。・多人数の地域の方々との関わりはもてないが、少人数でのかかわり（米の栽培・十石船など）は行うことができています。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none">・今後とも『社会』の中で、子どもたちが育っていくことを保護者と共有する。・学校運営協議会や地域と関わりにおいては、共に集うことは困難でも、関わり方の工夫をしたり、取組の様子を伝えるなど、気持ちや思いの双方向のやり取りを大切にする。
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	
<ul style="list-style-type: none">・学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容・運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とその中での子どもの育ち	

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・このような想像だにできなかった状況ののもと、『心理的な距離』の緊密さがいかに大切かがよくわかった。 ・子どもたちにとっても、この経験がマイナスばかりではなく、プラスの育ちにつながっている部分があると思う。
---------	--

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標	教職員一人一人が勤務時間を意識し、子どもと向き合う時間を十分に確保する。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域に『働き方改革』に対する理解を深める。 ・会議を精選，効率化する。 ・電話応対時間を午後 6 時までとし，以降は留守番電話に切り替える。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間の推移 ・年休や特休などの取得率

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間の推移 コロナ禍において、休日や夜間の勤務は大幅に削減されたが、日常の業務は消毒や、新たな取組の立案などで、減少させることは難しい状況にある。 ・年休や特休などの取得率 昨年に比べ、取得率は若干、増加している 	
自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比べ、職員数は増加している。園全体で業務の見直しや各自の分担の仕方の見直しをさらに進めていく。
分析を踏まえた取組の改善	
<ul style="list-style-type: none"> ・園としては、今後『繁忙期』となるが、上記の通り一人一人の教職員が互いの業務を支え合う 	

	態勢の構築をさらに進めていく。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間の推移 ・年休や特休などの取得率
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園特有の『忙しさ』があることがよくわかる。今後、学校関係者や地域との会合などの見直しも必要となってくると考えている。

最終評価

<div>（中間評価時に設定した）各種指標結果</div>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div>